

# ふるさと歴史アラカルト

## 独立性易の舟遊び

岩国を代表する観光資源の錦帯橋。その創建時に『西湖遊覧志』という書物をもたらした、大きな影響を与えたことと知られるのが中国からの帰化僧の独立性易です。

独立は計4度岩国を訪れており、1度目の来岩は寛文4(1664)年4月で、同年8月まで滞在しました。この岩国滞在中に、独立ら僧侶3人は御庄村の田原へ舟遊びに出掛けました。その時に見た情景を独立が詠んだのが、8首の七言絶句で構成された『谿上吟』という作品です。今回は『谿上吟』から当時の錦川沿いの風景や舟遊びの様子を紹介したいと思います。

まず独立は田原へ出発する前に「舟に乗って岸を離れ、10里(約5km)を成り行きに任せて進み、我々はひとときの遊興を味わえることだろう」と、これから始まる舟遊びを楽しみにしている心情を詠んでいます。

続いて、舟遊びが始まると「溪谷は山を回っており、さらに進むといよいよ幽玄の地である」と詠み、田原の溪

谷への期待感を表現しています。

また「舟歌を歌う船頭の声がとても大きく激しかったので、水鳥が驚いて船頭のいる所から散り散りとなった」と舟上での珍事も伝えています。

一方で、独立は錦川沿いの集落の様子について「深い谷間にある民家は小高い丘陵に沿って建っており、切り開かれた土地では麦の脱粒が行われている。忙しく駆け回っている子供たちは、明日には餛飩などを味わうことだろう」と興味深く観察しています。

いよいよ田原の溪谷へ至ると、その風景を「山々は重なり合って、重関を守るようだ」とし、さらに中国北宋の書家・蘇軾の詩書『赤壁賦』を引用して、自然を畏怖する心情を詠みました。また「折り重なった山々は曲がりくねった溪谷を囲み、まるで緑の屏が巡らされていくようだ」と峻険な溪谷の様子を表現しています。

このように、独立の表現豊かな詩書は、江戸時代の錦川沿いの情景を私たちに伝えてくれています。

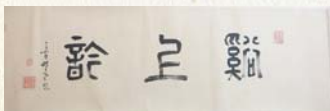
### 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館  
住所：横山二丁目7-19 ☎(41)0452  
休館日：月曜（祝日の場合はその翌日）

※1 江戸時代は御庄村の一部であった

※2 中国の1里は時代や地域によって異なるが、概ね約500メートル

※3 小麦をこねて作った薄い皮に、肉や野菜を細かく刻んで混ぜたものを包んだ料理



独立性易筆「谿上吟」

## 岩国市 人口・世帯

人口 131,136人【前月比 -57人】 男性 62,401人 女性 68,735人

世帯 65,656世帯【前月比 +21世帯】 ※外国人人口を含む(2021年6月1日現在)

### 交通事故発生件数

5月分事故件数 18件(89件) 死者数 1人(4人) 傷者数 25人(104人)

※高速道路発生分を除く。( )内は2021年累計

### 目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。  
お問い合わせは、広報戦略課 ☎(29)5016 FAX(21)3337